

# フォルクスワーゲン社「e-モビリティウィーク」取材報告書

APEV ドイツ ベルリンデスク  
シュリットディトリッヒ桃子

## 1. イベント概要

イベント名：「e-モビリティウィーク」

日時：2014年3月8日～21日 10時～18時\*

\* 一般公開は3月14日から16日の3日間のみ、それ以外の日は招待客（小売関係者および報道関係者）のみの入場。また、期間中はほぼ毎晩、若者を対象としたエレクトロ音楽イベント「e-mobility meets electronic music」も開かれており、こちらはチケットを購入すれば誰でも入場可能。

場所：ドイツ ベルリン 旧テンペルホーフ空港

主催：フォルクスワーゲン（VW）社

## 2. 会場の様子

筆者が本イベントに関する情報を入手した時には、一般公開日は既に過ぎていたので、報道関係者枠で入場を試みた。が、さすがはルールを重んじるドイツ。「招待状なしでは入場不可」の一点張りの非常に厳しいセキュリティに阻まれてしまった。しかし、二日間に渡って現地交渉を重ねた結果、入場成功！

殺風景な旧空港内に突如現れたホテルのような入口から会場内へ一歩足を踏み入れると、そこは一面ブルーの世界。フランクフルトモーターショー2013でのブースと同様、VW社のEVイメージカラーの青で統一されていた。その青い空間の中、入口近くにはお洒落なブッフェコーナーが設けられ、仕立ての良いスーツを着込んだ招待客たちが美味しそうな軽食を楽しんでいた。かなりのコストをかけて、ビジネス客たちにアピールしていることがわかったと同時に、厳しく「招待客限定」としていた訳が理解できた瞬間だった。また、このイベントでは社内教育が行き届いているのか、スタッフは総じて感じが良く、質問にも快く答えてくれた。

会場前のイベントポスター



旧空港内に設置された会場入口



### 3. モジュラー・トランスパース・マトリックス戦略

ビュッフェコーナーを抜けるとすぐに東京モーターショー2013でも展示されていた4人乗り超低燃費プラグインハイブリッド車 (PHEV) 「twin up!」と2人乗り PHEV 「XL1」が目に入ってきた。ディーゼルと電気で動くこれら二台は「兄弟車」と呼ばれていたが、その所以は VW 社が推進する「モジュラー・トランスパース・マトリックス戦略」により作られたから、との説明を受けた。この戦略では、設計の規格・標準化を図ることにより、異なる車種でも部品を共有することができ、多様な車種の生産が非常に効率よく行えるらしい。

例えば、「twin up!」の場合、駆動システムは先行発表された「XL1」のものを、プラットフォームは現行の「up!」のものを使用している。また、後に記載するプレゼンテーションでも述べられていたが、「e-Golf」は、ガソリン車である現存の「Golf」のインテリア、エクステリアの多くをキープしたまま、駆動部分を変えるだけで生産が可能とのこと。既に市場投入されている他社の EV のように一から EV を作らなくても、既存の車種のパーツを組み合わせることにより、EV 生産ひいてはその普及の効率化を図っている模様。さらに、EV 生産用の工場を新設することなく、既存のラインを転用し大量生産できるので、この戦略は VW 社にとって大きな強みとなっているようだった。

兄：XL1



弟：twin up!



### 4. EV 車

会場内を進んでいくと、昨年のフランクフルトおよび東京モーターショーでもお披露目された「e-Golf」、「e-up!」およびそれらの内部部品が展示されている。「e-Golf」の走行距離は190km、「e-up!」は160km、と新しいEVモデルとしては少し物足りない感じがしたが、説明員によると「ドイツのドライバーの80%は、1日に最大50Kmしか運転しないんです。だから当面はこれくらいで十分だと思います。」とのことだった。

e-Golf



e-up!



e-Golf の内部



e-up!のバッテリー



上記以外に目をひいた展示は、一人乗り電気自動車「Nils」。「e-モビリティの未来」というタイトルと共に紹介されていたこのEVはウイングドア搭載のユニークなデザイン。最高速度は130Km、2時間の充電で最大65Km走ることができるそう。都市部における短距離移動用に作られたとのことだった。

一人乗り電気自動車「Nils」



## 5. プレゼンテーション

会場内では「VW グループの車の将来像」と題したプレゼンテーションも行われた。ポイントは「環境保全に向けた今後の車のあるべき姿」ということで、VW グループのエコカー開発の歴史と、それに伴う EU 全体での二酸化炭素排出量の減少に触れ、同グループの環境保全への高い貢献度を強調していた。また、現段階では FCEV (新型燃料電池電気自動車) というよりも、PHEV (Plug-in Hybrid EV) および BEV (Battery EV) 開発・生産に注力しており (注力度は PHEV > BEV)、同グループのオーディやポルシェでも PHEV の開発を進めている、とのことだった。

さらに EV の要であるバッテリーに関しては「現行では1回の充電での最大走行距離は150-230Km だが、2020年をめどにリチウム硫黄電池、リチウム酸素電池を利用し走行距離を300-520Km まで伸ばしたい」との説明だった。ちなみに、現在 VW 社では、パナソニックのリチウムイオン電池を使用しているそうである。

電池に関しては、今回展示されていた EV 車のリチウムイオン電池保証期間は8年間、または走行16万 Km までのこと。充電時間は高速充電機器を使用の場合30分、通常の専用プラグ使用時は8時間。また、「家庭用プラグを使用しての充電（9-13時間）も可能なので、寝ている間にご家庭の車庫で充電できますよ」との説明だった。

## 6. 屋外展示

本イベントは旧空港という特色を活かし、以前滑走路であった屋外でも展示や試乗を行っていた。先のプレゼンテーションでも触れていたが、VW 社のエコカーの歴史をここでも強調していたのが興味深い。

歴代 VW エコカー（一番右が1986年発表の「Polo Formel E」で一番左が最新 EV 車「e-up!」）



残念ながら試乗会への参加は叶わなかったが、広大な旧滑走路を静かに、しかし力強く走っていた e-Golf が印象的だった。

ずらりと並んだ「e-Golf」と「e-up!」



広い構内での試乗会



## 7. 所見

自動車大国ドイツの首都において非常に有名で広大な場所を借り切り、2週間にわたり電気自動車プロモーションイベントを開催した VW 社。そのマンパワーおよび費用は莫大なものと察するが、本イベントのターゲットもティーンエイジャーから一般市民、そしてビジネス層と幅広く、まさに社名の「国民の車」から「国民の電気自動車」を目指しているとみえる。EV 戦略においては、三菱や日産といった日本企業や BMW やメルセデス（スマート）といったドイツメーカーに遅れを取っていた VW だが、ここに来て VW 社が「モジュラー・トランスパース・マトリックス戦略」という独自の戦略を有し、電気自動車の普及に本気で乗り出した印象を強く受けた。

これでドイツの三大車メーカーのEV戦略が出そろったわけだが、本イベントのプレゼンテーションでも触れられていたように、そもそもドイツでは、二酸化炭素排出低下は喫緊の課題である。そのため、2011年にメルケル独首相は電気自動車の開発費用として、自動車会社へその後2年間で10億ユーロの助成を約束したが、それは同時に、ドイツが国の名誉をかけて電気自動車大国として世界のリーダーになるべく動き出したことを意味した。その後、昨年フランクフルトモーターショーに足を運んだ同首相は2013年を「EV元年」と位置づけた。このように、VWグループを含むドイツ自動車メーカーは開発へ本腰を入れ、国と一丸となってEV普及に本格的に取り組み始めていることを強く感じたイベントであった。